

— 第46編 — モスクが教会になったまち

コルドバ^{*1}は、古代ローマ時代（BC753—1453）に属州ヒスパニア・バエティカの首都であった。現在でもその頃の遺跡が多く遺されている。その後他国に支配され、6世紀には東ローマ帝国の領土となったこともある。そして、711年イスラム教徒に征服された。756年に成立した後ウマイヤ朝^{*3}はコルドバを首都とし、その中心はメスキータ（モスク）であった。10世紀に繁栄をとげ、大図書館が建てられるなどして多くの学者が活躍するなど、トレドと並んで西方イスラム文化の中心地として発展し、10世紀には世界最大の人口を持つ都市となった。

その後、キリスト教勢力によるイスラム勢力に奪われた土地の奪還を図る「レコンキスタ（国土回復運動）」の進展により、1236年カステイリヤ王国^{*5}のフェルナンド3世^{*6}に征服された。15世紀末にレコンキスタがグラナダ陥落によって完了すると、イスラム勢力はイベリア半島から追われ、8世紀にモスクとして建設が開始され拡大を続けてきたメスキータには、新た



写真46-1 ユダヤ人街に沿う壁と水路

*1
Cordoba: アンダルシ
ア州コルドバ県の県
都。人口約33万

*2
Hispania Baetica

*3
Banu Umayyad
(756~1051)

*4
Mezquita: スペイン語
でモスクの意。固有名
詞としてはコルドバの
「聖マリア大聖堂」を指
す

*5
Reino de Castilla
(1035~1715)
レコンキスタの主導
的役割を果たす

*6
Fernando III
(1201~1252)

*7
Guadalquivir: アンダ
ルシア州最長の川

*8

Alcazar de los
Reyes: Christianos: キ
リスト教徒の王たちの
アルカサル

*9
Moors: 北西アフリカ
のイスラム教徒の呼称



写真46-2 メスキータのアーチ



写真46-3 メスキータの教会部分
見上げ

にカトリック教会部分が増築されることになる。モスクの教会化である。それでも、室内に林立する柱と無数の反復するアーチに支えられた大空間は、典型的なイスラム建築空間である。

ユダヤ人街を含みその周辺に展開するコルドバ歴史地区は、グアダルキビール川^{*7}側の入口に架かるローマ橋とともに世界文化遺産に登録されている。また、メスキータに隣接するキリスト教徒の王たちの居城「アルカサル」^{*8}は、幾何学的な配置の池と庭園が美しい。1386年に築城が開始されたが、レコンキスタ以前からあったムーア人^{*9}による要塞跡に作られた。こうしてイスラム建築の構造を引き継ぎながら、観光の重要拠点となった現代に至るまで、浮き沈みの激しい歴史を経験した。そして、近傍のメスキータとともに今なお魅力的な姿を保っている。



写真46-4 コルドバのアルカサル